

実績報告書

届出者	住所	東京都台東区台東1-2-16	氏名	株式会社ライフコーポレーション 代表取締役社長 岩崎 高治
特定事業者の主たる業種		58飲食料品小売業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		食料品を中心に販売するスーパーマーケット。近畿圏で149店舗を出店している。大阪府内では116店舗出店（2017年4月末日時点）。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
平成	26	年	4	月	1
			日	～平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)	

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(25)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	92,389 t-CO ₂	99,295 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	106,520 t-CO ₂	115,892 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %
		削減率(原単位ベース)	4.1 %	2.7 %	13.8 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	1.3 %	1.4 %	12.8 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(延床(千m ²)×営業時間(h))
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>平成28年度3店舗増により、温室効果ガス排出量は増加しているが、原単位ベースでの削減率については、平成28年度の削減目標4.1%に対し、今年度においては13.8%の削減を達成。店舗従業員の意識向上に加えて、改装実施時の冷ケース入れ替えなどを含む機器の効率的な運転管理により、温室効果ガス削減に寄与したと考える。</p>
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

全社的には、社会・環境推進部を中心に「環境対策ワーキング」を設置し、関係各部署と連携し情報共有・問題認識・対策案の検討を行っている。
 南港プロセスセンターでは、センター長を代表とした省エネルギー推進委員会を設置し、運用部分での省エネ達成を目指している。
 天保山プロセスセンターでは、工場の改装、工場内設備の見直し（空調設備の入替え、製造機器の省エネタイプへの入替え）により、使用量の削減を図る。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	南港プロセスセンター	コード(1112) 月別エネルギー種別の使用量を把握	月別の水光費をパソコンにてデータ管理する。	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	南港プロセスセンター	コード(1113) 適正な運転状態であるかをチェックする	冷凍空調設備、ボイラー、エアーコンプレッサーなどの運転管理を毎日行う。	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	南港プロセスセンター	コード(1114) 保守及び点検を行うことで予防保全とする	メーカー及び自主点検を定期的に行い、予防保全とする。	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	天保山プロセスセンター	コード(5221) 既存生産機器の更新	工場改装工事を実施(H25年11月よりH27年8月)。構内生産機器の省エネタイプへの更新。	25年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	天保山プロセスセンター	コード(1216) 空調設備の更新	改装工事に伴い、構内空調設備を順次更新。	25年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	天保山プロセスセンター	コード(1112) 電気ガスの使用量の見える化	節電、節ガスに対する意識付けを図り、無駄の削減を図る。	25年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	府内全店舗	コード(1112) 月別エネルギー種別の使用量を把握	月別の水光費をパソコンにてデータ管理する。	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	府内全店舗	コード(1113) 冷蔵ショーケースの運転管理	営業時間外において、一部ショーケースをタイマー制御により停止。	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	府内59店舗	コード(1113) 電力量計測機器の設置	時間ごとの電気使用量の見える化により不要電気の削減をする。	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
10	レ	GHG排出	府内74店舗	コード(1218) LED照明の採用	店内売り場天井基本照明にLEDを採用。	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

11	レ	GHG排出	府内36店舗	コード(1216) 高効率空調機 への更新	既存空調機を高効率GHPに更新。	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
12	レ	GHG排出	府内2店舗	コード(4210) 折半屋根への 遮熱塗装	折半屋根への遮熱塗装により外皮幅射熱を抑制し、下記の空調機運転を低減。	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3)その他の抑制対策
